

## コンサルテーション事業報告

事業の名称	教育困難校における学校経営相談・学習支援事業	事業代表者	清水 禎文
対象	高等学校教員 中学校教員 高校生 中学生 教育委員会		
目的	多様化が進む後期中等教育は、制度改革（全県一学区制、男女共学化など）等により、さまざまな困難を抱えている。問題の形こそ異なるものの、進学校からいわゆる教育困難校まで何らかの問題を抱えていない高等学校はない。本事業においては、こうした様々な形の問題を抱えている学校に対して学校経営、教員サポート、学習支援を中心として、学校経営相談・学習支援事業などを行うことを目的とする。		
実施日	不定期	実施回数	
		月 2～3 回程度	
実施場所	大学 学校		
主なスタッフ	清水禎文 水原克敏 柴山直 有本昌弘		人数
	小川佳万 熊谷龍一 新川荘光 (M1)、高橋雄 (M1) その他		15 名程度
スタッフの活動内容	<p>○学校経営支援</p> <p>宮城県 A 高校 震災後の事情視察 (4 月)</p> <p>宮城県 A 高校の「A 高校を考える会」(7 月、11 月) に出席</p> <p>宮城県 B 高校、C 高校の学校評価アンケート分析 (6 月、12 月)</p> <p>宮城県 D 高校における教育課程開発と評価 (12 月)</p> <p>○学習支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県 A 高校における基礎学力定着プランに参加し、学習支援活動を行う (7 月、12 月、3 月)。</li> <li>・宮城県 B 高校における「総合的な学習の時間」への参加 (7 月、12 月、2 月)。</li> <li>・宮城県 E 高校における学校設定科目の相談 (月 1 回程度)</li> <li>・宮城県 F 高校における教育課程開発</li> </ul>		

<p><b>事業実施内容</b></p>	<p>○教育困難校における学校経営支援</p> <p>宮城県 A 高校は周辺地域に位置し、年々入学者数が減少してきた。学級数が削減されたものの、入学者は募集定員を満たしていない。この A 高校では、5 年前より学校関係者、PTA、周辺の中学校長、地元自治体の首長・議長・教員委員長、地元企業経営者などから構成される「A 高校を考える会」を開催している。年 2 回開催されるこの会に出席した。また高校長と学校経営に関する意見交換を行った（年 5 回）。</p> <p>○高校における学習支援活動</p> <p>宮城県 A 高校における基礎学力定着プラン（4 月、7 月、12 月）に参加した。この学習プランで使用される教材は、一昨年に高校側と相談の上、大学側で作成したものである。今年度も、この教材を使用し、問題の改善を検討した。</p> <p>宮城県 B 高校は、学校の教育目的に合わせ、特色ある「総合的な学習の時間」の開発に取り組んでいる。この「総合的な学習の時間」のカリキュラム及び教材開発について、担当教員と意見を交換した。また学習の最終段階で行われる報告会に出席した。</p> <p>宮城県 C 高校は、今年度より学校設定科目「国際理解教育」を開設した。この科目のカリキュラム設計およびアセスメント方法について、月 1 回程度の相談事業を行った。</p> <p>○東北大学教育指導者講座におけるワークショップ</p> <p>東北大学教育指導者講座に講師として出席し、ワークショップに参加した。ワークショップは、指導者講座参加者全員（70 名）が勤務校における教育上の課題を持ち寄り、検討するものであり、4 日間のべ 12 時間行われる。このワークショップにおいて、各学校の教育事情を聞き、全体討議に加わるとともに、個別相談にも応じた。</p>
----------------------	---